

テーマ：テーマ活動【color：楽器遊び】

◎歌にちなんだ活動の中で、楽器遊びを楽しむ。

テーマの設定理由：

・子ども達は、歌や手遊びが大好きで普段から保育士と一緒に活動を楽しむ姿が見られる。歌を通して、自然物に興味を持ったり、言葉を繰り返し真似をすることもある。特に【おもちゃのチャチャチャ】や【きらきら星】などの曲に合わせて、体を揺らしたりリズムをとってみようとする姿から、楽器遊びをさらに楽しめる機会をつくろうと本物の楽器に触れる機会を普段の生活の中に取り入れていくことにした。

●準備したもの

- ・鈴・タンバリン・カスタネット
- ・手作り楽器

探究活動を実践する

●活動内容

- ・職員が楽器の紹介
- ・実際に子ども達が鳴らす
- ・ピアノの音に合わせて、自由に楽器を鳴らして楽しむ

●子ども達の様子

・手作り楽器のマラカスなどで、遊ぶ機会は多かったが本物のタンバリンやカスタネットに触れる機会はなかなかなかったので、子ども達も興味を持って活動に参加する子も多かった。鈴やタンバリンは音を出しやすいこともあり、子ども達を楽器を楽しんで鳴らしていた。室内の環境としても、鈴やカスタネットを置き、子ども達が自由に触れることが出来るようにしたことで、日常生活の中で楽器に触れる機会を設けることができた。楽器を慣らし「見て！」と教えてくれたり、おもちゃのチャチャチャなどの曲に合わせてリズムをとってみようとする姿も見られた。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
楽器の紹介	10m/定期的に	21名/ 定期的に
楽器遊び①自由に鳴らす	10m/子どもに合わせて日常的に	子どもに合わせて/ 日常的に
②ピアノに合わせて鳴らす	10m/子どもに合わせて日常的に	子どもに合わせて/ 日常的に



振り返りをふまえた気づき

乳児でも手作り楽器だけでなく、本物の楽器に触れることはとても大事だと感じた。子ども達も、興味を持って手を伸ばしたり、ピアノに合わせて楽器を鳴らすことを楽しんでいたので、もっと楽器を身近に感じてもらえるように他の楽器も紹介していきたい。

テーマ：テーマ活動【color：和太鼓】

◎【よく聞く耳・よく見る目・よく考える頭】を意識して和太鼓に取り組む。リズムをうつことの楽しさを味わう。（1年間を通しての取り組み）

テーマの設定理由：

太鼓を叩くことの楽しさ・リズムの違いを感じることで、友達と一緒に気持ちを一つにして取り組むことの難しさや、心地よさを感じることが出来るように活動を取り入れている。室内の環境にリズム譜を用意すると、子ども達が自分たちでリズム打ちをする姿が見られている。子ども達の意欲を大切に、継続的にこなっていきながら、子ども達と振り返りをおこなっていく。今年度は、太鼓とタンブリンを楽曲に合わせ、より楽器のリズムを味わう機会を設けた。

●準備したもの

- ・衣装、太鼓、バチ、音源、タンブリン

探究活動を実践する

●活動内容

- ・講師の先生から基本的な叩きかた・リズムを教えて頂き、実践をする。

●子ども達の様子

年度初めは、憧れの気持ちはあったものの実際にバチを持ってみたときの重さや体の重心の置きかたなどが難しく感じる子もいたが、講師の先生が楽しく持ち方や体の使い方、リズムを教えてくださいましたことで、子ども達も少しずつ自信を持って叩く姿が見られた。「次はこうだね!」「わっしょいわっしょいって元気よくする!」などと思い出しながら、繰り返しおこなうことで子ども達も楽しく取り組んでいた。また、チームを分けて行う際には、お互いの発表の際に掛け声をしたりと友達がやっている姿も応援しようとする子も増えてきていた。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
練習	60m/月1回以上	17人/ 月1回以上
リハーサル	20m/7 月・1~2月 合わせて各4回	17人/ 7月・1~2月 合わせて各4回
本番	10m/年間2回	17人/7月・2月



振り返りをふまえた気づき

今年度初めて、和太鼓とタンブリンを合わせて楽曲を発表した。親しみのある打楽器だったので、子ども達も楽しく取り組むことができた。反省としては、年度初めに取り入れたので、最初は和太鼓の基本を子ども達ともう少しおこない、発展的な形で打楽器をいれていくという流れにするとさらによかったのではないかと感じた。生活発表会では、夏祭りでおこなった曲をベースに、大太鼓や桶太鼓、締め太鼓を加え、アレンジをおこなう。通年で同じ曲に取り組むことで、子ども達が自信を持ち楽しく発表できるようにしていく。

テーマ：テーマ活動（color：和太鼓）

◎発表会で、衣装を着て太鼓を叩く。

テーマの設定理由：

1年間の集大成として和太鼓の発表をする生活発表会で、どんなことができるだろうかと考えた際に、衣装を揃えるという案が出た。和太鼓は毎年、年長児が年間を通して取り組んでいる活動であり、年中・年少児は堂々と発表する姿に憧れを持つ姿も見られる。発表する年長児も、衣装を着ることでさらに気持ちが高まり、和太鼓を楽しめるのではないかと考えた。

●準備したもの

- ・衣装、太鼓、バチ、音源

探究活動を実践する

●活動内容

- ・衣装を着て発表会で太鼓を叩く。

●子ども達の様子

・衣装を紹介すると、期待に満ちた表情で本番を迎えるのを楽しみに活動出来ていた。練習ではリズム打ちや心をつなぐことの難しさを感じる姿も見られたが、最後まで諦めずに発表会と言う特別な舞台に立つことを楽しみにしている様子が伺えた。本番は緊張しつつ楽しみながら太鼓をたたくことが出来、子ども達からも「楽しかった」「またやりたい」と前向きな言葉が聞こえてきた。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
練習	60m/月1回以上	17人/ 月1回以上
リハーサル	20m1～2月 で4回	17人/ 1～2月 で4回
本番	10m/1回	17名/1回



振り返りをふまえた気づき

衣装を着ることに期待感を持ったり特別な感情を持って楽しみながら活動に取り組むことが出来た。今後も子ども達が自発的に、楽しい、もっとやってみたいという声を引き出せるように活動を考えていく。また、年中児へも憧れの存在として、カッコいい姿を見せることが出来た子ども達は、実際に発表会後に和太鼓を一緒におこない、引き継ぐことが出来た。

テーマ：モンテッソーリ教育

◎「大きい」「小さい」という大きさの違い・重みを知る

テーマの設定理由：

◎0.1歳児の時期は、【運ぶ】という動きや【重ねる・積み上げる・並べる】といった動きを獲得しようと、さまざまなものに触れる姿が見られる。その様子から、モンテッソーリ教育のピンクタワーを提示することで、子ども達の興味や活動も広がるのではないかと考えた。
◎感覚に敏感な時期なので「大きい」「小さい」「重い」「軽い」という感覚を実際に体験し学ぶ。また、秩序に敏感な時期が始まるため、規則正しい順番の心地よさを感じられる活動として取り入れる。

●準備したもの

- ・ピンクタワー・絨毯

探究活動を実践する

●活動内容

ピンクタワーを紹介し、提示を行う。絨毯を広げ、物を見せながら扱い方を説明し「大きい」「重い」「小さい」「軽い」という事を言葉にして伝えていく。また、大きい物から順番にタワーのように積み重ねていく。1番小さいものと、積み上げた時の大きさの差が「ピッタリ」というところも見せていく。

●子ども達の様子

ピンクタワーを紹介すると、興味津々な表情で保育士の提示をじっと見ていた。ゆっくりとやって見せると1つ1つの動きを真剣に見ており、「タワーみたいだね」と伝えると「タワー！」と保育士の言葉を真似していた。その後、室内活動の際には、自ら絨毯を広げ、順番に積み上げたり、横に並べることもあった。大きい物は「おもしろい」と言いながら運ぶ姿もみられた。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
ピンクタワーの提示・実践	5分/1回	対象12人/毎日



振り返りをふまえた気づき

感覚に敏感な乳児期なので、「重い」「大きい」などの言葉を分かりやすく丁寧に伝えていった。その後、日常の中で、子ども達から「大きいね」という言葉が発せられるようになってきた。体験したことの感覚と言葉が、きちんと繋がっているのだと改めて感じた。また、秩序に敏感になってきているので、丁寧にゆっくりと積み重ねる子どもおり、「順番」「ぴったり」など、そのような気持ちを大切にしていきたいと感じた。

テーマ：モンテッソーリ教育

◎民族衣装や文化教育に触れ、世界に興味を持つ。

テーマの設定理由：

◎幼児期では、自分が住んでいる地域や国に関心を持ち、日本地図のパズルや都道府県を覚えたり関心を広げようとする姿が見られる。

その様子から実体験をしながら民族衣装を着る体験を通して、身近な日本だけでなく、子ども達の興味や関心も広がるのではないかと考えた。

◎英語の活動では、ネイティブの職員を通して、口元を見ながら真似て発音したり英語の曲に合わせて踊ったり歌い、触れることを楽しむ姿がある。

民族衣装からきっかけを作って、より英語の活動も親しみを持って取り組めたり、他の国の言語にも興味を持てるようになるのではないかと考えた。

●準備したもの

- ・民族衣装、国旗や衣装の塗り絵、色鉛筆

探究活動を実践する

●活動内容

国の紹介をして子ども達の興味を引き出した。その後、民族衣装の紹介をして着方の提示をしたり、国の文化を深めることが出来るように用意した塗り絵や図鑑の紹介をおこなった。また、他の国にも興味を湧くように世界の文化コーナーを用意し、常に子ども達が手に触れられるように環境を整えた。

●子ども達の様子

・衣装を一人で着用することは難しかったが、着方を理解した年上の子が年下の着替えを手伝う姿が見られ、国旗や衣装の塗り絵も自分自身で図鑑を見ながらおこなう様子があった。衣装を着用する国以外の国にも興味を持ち、世界の国旗の図鑑を自ら見たり、国旗の塗り絵の活動に積極的に取り組む様子が見られるようになってきた。コーナーが定着してくると、子ども達同士で「これ着てみようよ!」「チマチョゴリってなんだよね!」「韓国のドレスみたいだね」と会話も盛り上がり、興味が広がっている様子も見られた。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
民族衣装の紹介	20m	47人/ 全体提示2回
民族衣装を着る	10m	毎日/対象47人
民族衣装の国に関する活動	20m	毎日/対象47人



振り返りをふまえた気づき

・一人で民族衣装を着ることが難しくても、周りにいる子が手を差し伸べてお手伝いする姿も見られた。回数を重ねるにつれて子ども達自身で着脱が出来るようになった。また、コーナーで出している国以外の国にも興味を示し、図鑑で調べたり国旗の塗り絵に取り組む様子があった。今後は交流会で紹介する国際食の際に着るなどさまざまな文化に触れられる機会にしていきたい。

テーマ：モンテッソーリ教育

◎感覚教具を通して、五感を使った活動を楽しむ。

テーマの設定理由：

・乳幼児期はさまざまな感覚に敏感である。特に2～3歳の時期に感覚を通して経験したことを、4～5歳では感覚を整理するということができるようになる。幼児クラスでも、日々の生活の中で【触る】ことや【聞く】ことに着目する子もいたため、実際に教具の提示をおこなった。

●準備したもの

- ・雑音筒、温覚板、絨毯、目隠し

探究活動を実践する

●活動内容

雑音筒を紹介し、提示をおこなう。絨毯を広げ、実物を見せながら扱い方を説明し「弱い音」「強い音」などと音の大小があるという事を言葉にして同じ強さの円筒がひとつずつついに對にしながら音の強さの順番の違いもあることを伝えていく。また、温覚板では温覚板を紹介し、提示をおこなう。扱い方や持ち方を説明し、「冷たい」「温かい」など目隠しをして温度の違いがあることを感じることを見せていく。

●子ども達の様子

・雑音筒の提示後、初め同じ音をペアリングしていく際に聞き馴染みのない音の違いに悩む姿も見られた。中でも、「この音は小さいね!」「でも、こっちも似てるかな?」と耳を澄ませて、繰り返し聞き確かめる子もいた。すべて並び終え、順番にもう一度振っていくと「だんだん小さくなって」と規則的に並んだ音の違いを感じることが出来ていた。繰り返し活動をおこなうことで、楽しんで取り組む姿が見られた。
・温覚板では、鉄やガラス、フェルトなどの感触の違いに興味を持ち「これは、冷たい!」「こっちは、布みたい」と興味を持って触れる姿が見られた。また、目隠しをして同じものをペアリングしていく活動では「同じかも!」「これはどうかな」と手の感覚に意識を向け、比べていた。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
雑音筒、温覚板の提示・実践	15分/1回	対象47人/毎日



振り返りをふまえた気づき

音の違いを聞き分ける教具に触れたことで普段の生活音や容器に物を入れて音の違いを見つける活動にも発展し、戸外活動で実践している子どももいた。また、温覚板で温度の違いを感じたことで壁や机など身近な物にも手の平で触れて感覚の違いを感じている様子があったため、今後は教具から普段の生活の音に耳を傾ける活動や温覚板と同じ素材、温度の物を見つける活動に発展させ、興味の幅を広げられるようにしていきたい。

テーマ：食育

◎調理器具を使用して、クッキングをおこなう

テーマの設定理由：

◎ままごとコーナーでは包丁・まな板・ヘラなどの調理器具を使って見立て遊びを楽しむ姿があり、「お料理したい!」「〇〇作ってるよ」と、料理をすることに興味を持つ発言も見られている。
その様子からクッキングを通して、本物に触れることによってより料理することの楽しさ、興味の幅や工程のレパートリーが増えるのではないかと考えた。また、自分たちで作ったものを口にすることで食材への関心も広がるのではないかと考えた。

●準備したもの

調理器具（マッシャー）、じゃがいも

探究活動を実践する

●活動内容

マッシャーという調理器具を紹介する。工程のやり方をを見せながら使い方を説明し、具材が次第に小さく潰れていく様子を言葉で知らせる。また、子ども達の「やってみたい」という意欲を引き出しながらマッシャーを使う様子を見せていき、実際にじゃがいも潰してじゃがいも餅を作る。

●子ども達の様子

マッシャーで潰すことにより、次第にじゃがいもが小さくなる様子や感触の面白さを感じておこなっている姿があった。自分達で作ったことに喜びを感じ、出来上がったじゃがいも餅を美味しそうに食べる様子が見られた。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
調理器具を使ってクッキングをする	1/年間 1 2 回	15名/年間 1 2 回



振り返りをふまえた気づき

「やってみたい」「出来るよ!」と、調理器具に触れることで子どもがより主体的にクッキングに取り組もうとする姿が見られた。活動内容の幅も広がり、子ども達はクッキングを通して「自分で作ったから食べる」と、苦手な物でも口にしてみたり自分から進んで食べる姿も見られた。今後もさまざまな調理器具に触れて、料理の楽しさや食材への関心が持てるようにしていきたい。

テーマ：食育

◎調理器具を使用して、クッキングをおこなう

テーマの設定理由：

◎水遊びの活動や室内活動でホイッパーを使って泡立てる経験を楽しむ姿が見られる。その様子からクッキングでは実際に具材を混ぜ合わせ、料理を作り上げることに発展させ、料理する面白さを感じたり、よりクッキングの活動が楽しいと思えるきっかけになるのではないかと考えた。

●準備したもの

調理器具（ホイッパー）、具材

探究活動を実践する

●活動内容

ホイッパーという調理器具を紹介する。クッキングの工程ややり方を見せながら使い方を説明し、粉が水を加えて混ぜることで次第に固まっていく様子を見せていく。実際に薄力粉に水を加え、だご汁の団子を作る。

●子ども達の様子

・ホイッパーで混ぜる際に水を加えて混ぜる度に生地が固まっていく様子を見て驚く姿が見られた。また、混ぜながらボウルも押さえておこなうことに苦戦する子には子どもから「持っておくよ」と自ら協力して取り組む姿があった。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
調理器具を使ってクッキングをする	1/年間 1 2 回	16名/年間 1 2 回



振り返りをふまえた気づき

調理器具を用いて実際に調理していくことで、子どもがより主体的にクッキングに取り組もうとする姿が見られた。混ぜる際に力加減や腕を使うこともあり、友達同士協力する姿や「こうしたらやりやすいよ」と、アドバイスする姿が見られ、思いやりの心も成長する様子が見られた。子ども同士で協力しながら完成させる喜びを今後もクッキングの活動を通して育てていきたいと感じた。

テーマ：食育

◎食育を通して五味を知る。

テーマの設定理由：

食事をしているときに「美味しい、甘い、酸っぱい」など普段子どもたちが感じていることを食育を通して伝え、五味を知りより食事に興味関心を示し活動の幅が広がり今までとは違う視点を持って食事をする事が出来るのではと考えた。

●準備したもの

酢、砂糖水、塩水、昆布だし、コーヒー、スプーン（一人各1つ）、五味クイズ

探究活動を実践する

●活動内容

五味について知る、クイズ、舐め比べてみる。

●子ども達の様子

五味とは何か話をしクイズをおこなうことで自分たちでおさらいしながら考えることが出来た。その後実際に舐め比べてみると「美味しい」「甘い」など感想を言いながら舐めたものがどの五味に当てはまるのか友達と意見を出し合ったり普段の食事にも入っていることを伝えると「ご飯が楽しみだね」と前向きな声が聞こえてきた。食事の際は「これは五味の何が入っているかな？」と考えることが出来た。

活動スケジュール

活動内容	時間/回	人数/回
五味について知る。舐め比べる。	40分/1回	17名/1回
五味クイズ (室内環境に教材を置いておく)	10分/毎日	3~5歳 47名対象 /毎日



振り返りをふまえた気づき

食育を通して五味について知らせると食事の際に「これは何が入っているかな？」と自分たちで考えたり会話に繋がり楽しみながら食べることが出来ている。実際に舐めくればたことを家でも話をする子が多く保護者からも「夕食の際ゴミについて教えてくれました。」「一緒にクッキングしてみました。」など前向きな声が聞こえてきたため今後も食育を通して園だけでなくいろいろなところで食を感じる事が出来るように活動を展開していく。